

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校つくば自動車大学校
設置者名	学校法人つくば総合学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
工業専門課程	一級自動車整備士科	夜・通信	43 単位 (367 h)	13 単位 (320 h)	
	車体整備士科	夜・通信	37 単位 (373 h)	10 単位 (240 h)	
	自動車工学科	夜・通信	31 単位 (198 h)	7 単位 (160 h)	
	国際自動車整備士科	夜・通信	12 単位 (381 h)	10 単位 (240 h)	
	農業機械整備士科	夜・通信	6 単位 (260 h)	4 単位 (80 h)	
(備考) ()内の数字は経過措置に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ (https://www.tact.ac.jp/info.html) で公表する。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校つくば自動車大学校
設置者名	学校法人つくば総合学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ (<https://www.tact.ac.jp/info.html>) で公表する。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	元茨城県立高等学校校長	令和7年6月14日～ 令和11年6月	広報・就職支援
非常勤	団体役員	令和7年6月14日～ 令和11年6月	学校関係者評価 地域連携
非常勤	元会社役員	令和7年6月14日～ 令和11年6月	地域連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校つくば自動車大学校
設置者名	学校法人つくば総合学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 専門学校つくば自動車大学校シラバス作成ガイドライン(作成の手引き)に基づき、授業計画を作成する。 1. シラバス作成の基本方針 シラバスを作成するに際して、学校として共有すべき基本的な考え(何のためにシラバスを作成するのか、作成にあたって重視すること等)を掲げます。重視することとして、例えば、「学生の目線に立ってわかりやすい記述とする」、「学習の見通しが立てられるように具体的な記述とする」、「授業計画を不断に見直し、適時その内容を反映する」等が考えられます。 また、高等教育の負担軽減対応として、実務経験のある教員による授業科目については、教員の实務経験やそれを授業にどう活かしているのかを明示することを方針として掲げておくことが考えられます。 2. シラバスの役割 【教員の視点】担当している科目の「到達目標」「成績評価の方法」等をもとに当該年度の授業計画を立てます。各回の講義計画は設定した「到達目標」に学生を導くための実行計画になります。最終的に目的・目標が達成できるよう進捗状況や理解度等を確認しながら授業計画や方法等を適宜見直すことが重要です。 【学生の視点】学生はシラバスに記載されている「到達目標」「成績評価の方法」「授業計画」等の情報からその授業の科目を修得するためにはどれくらいの予習復習を含めた学習が必要かを把握します。 3. シラバスの整備と教育の質保証(作成手順) 学校の教育理念と個々に行われる授業の目的、達成されるべき到達目標には関係性があります。より良いシラバスを整備していくことが結果として教育の質を保証をしていくための改善に繋がります。シラバスを作成し、シラバスを活用した授業運営を行い、各学期における適切な評価や年間2回(9月・3月)に実施される各学科における講師ミーティング(教育課程編成委員会)による結果をもとに教育内容・方法等の改善を行っていくことが重要です。なお、シラバスは、新年度が始まる前までに作成しておかなければなりません。 4. シラバスの共通記載項目・各項目の解説 ①授業科目の基礎情報(科目名、授業時数、対象学科・コース、対象学年、必修/選択の別等) ②担当教員(実務経験のある教員、一般教員) ③授業概要 ④到達目標 ⑤授業の方法 ⑥授業スケジュール ⑦成績評価の方法と基準 ⑧授業時間外に必要な学修の具体的内容 ⑨使用教材 ⑩履修に当たっての留意点 5. 様式 具体的な共通様式を示し、学内におけるシラバスの標準化を図ります。 6. 公開 作成したシラバスは、ホームページ上の情報公開ページにて公開します。	
授業計画書の公表方法	ホームページ(https://www.tact.ac.jp/info.html)で公表する。

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学則及び細則第9条の規定に基づき、授業科目の成績評価は、各学期末及び学年末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時間の80%に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。

成績評価については、次に通りとする。

(1) 評価方法 (教育内容毎の評価は1～を総合して評価する。)

1. 筆記試験、実技試験の教育内容80についての評価は、150点を満点として取得した結果を100点に換算し成績評価の60%に充当する。
2. レポート及び論文審査は教科担当者が内容について検討し100点を上限とし点数にして、成績評価の15%に充当する。
3. 教育内容毎の履修時間を150点満点として履修した結果を100点に換算し成績の25%に充当する。

(2) 評価基準

成績評価は次のように表示されD判定を不合格とする。

A (100%～80%) B (79%～70%) C (69%～60%) D (59%～0%)

(3) 考查試験

各科目の終了時、または各期末に成績評価のための考查試験を実施する。

科目終了時に出席率が80%未満の場合は、考查試験の受験資格がなく、追試験を受ける必要がある。

(4) 追試験 (追試)

以下のいずれかに該当するものは、追試によって各科目の成績を評価する。

- ・各科目の出席率が80%未満の場合
- ・考查試験における成績評価がDの場合

追試の評価は、60点以上で合格とするが、評価はCとなり、60点未満の場合は、不合格となる。追試験又は再試験受験者の成績評価の上限はCとする。

(5) 認定試験 (進級・卒業)

追試が不合格の場合、その科目の前期または後期の評価は保留となる。進級または卒業するためには認定試験を受けて合格することが必要となる。不合格の科目が1つでもあると、進級・卒業は認定されない。認定試験の方法・評価については、追試と同様である。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 専門学校つくば自動車大学校成績評価、並びに進級、及び卒業に関する規程に基づくものとする。 成績評価において、各学期末において評定平均値を求め、各学科において成績分布を算出し、履修指導、及び学生支援に活用する。特に各学科において下位 1/4 に該当するものについては、面談等により改善を促す。 ・評定平均値算出の対象授業科目は、本校在学中に履修した全ての授業科目とする。 ・評定平均値は、次の通り区分し、それぞれに定める方法により算出する。その値に小数点以下第二以下の端数があるときは、これを四捨五入する。 (1) 学期評定平均値は、当該学期に履修した授業科目の当該学期の成績評価に応じた評定値の合計を当該学期に履修した授業科目数で除して算出する。 (2) 年間評定平均値は、学期評定平均値の計算方法の「当該学期」を「当該学年」に読み替え、同様の計算方法により算出する。 ・評定平均値の計算は、学期毎の指定日までに確定した成績に基づいて行う。 ・学期評定平均値、及び年間評定平均値は、履修指導及び学生支援に活用し、成績原簿には記載しない。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	(https://www.tact.ac.jp/info.html) で公表する。
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 専門学校つくば自動車大学校では、学生の臨機応変な対応で計画・準備・実行・評価を行い、必要な技術・知識を習得し、さらに技術・知識の向上の為、キャリア・コンサルティング技法、情報収集、情報提供を行い、コミュニケーション能力を身につけることを目的に卒業の認定の方針を策定する。 専門学校つくば自動車大学校成績評価、並びに進級、及び卒業に関する規程に基づくものとする。 進級・卒業については、次の要件をすべて満たしていることとする。 (修了及び卒業要件) 修了及び卒業要件は次のとおりとする。 1. 修業年限以上在籍し、全科目を履修すること。 2. 指定基準により定められた履修時間数以上。 3. 学費を完納していること。 (進級要件) 進級の要件は次のとおりとする。 1. 科目毎の履修時間が 80%以上であること。 2. 科目毎の成績評価が C 以上であること。 3. 学費が完納していること。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	(https://www.tact.ac.jp/info.html) で公表する。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校つくば自動車大学校
設置者名	学校法人つくば総合学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tact.ac.jp/info.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.tact.ac.jp/info.html
財産目録	https://www.tact.ac.jp/info.html
事業報告書	学校事務局に備え付け・閲覧及び配布
監事による監査報告（書）	学校事務局に備え付け・閲覧及び配布

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		一級自動車整備士科				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
4 年	昼	200／単位	74/単位	10/単位	116/単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
60 人		41 人	0 人	4 人	5 人	9 人			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 専門学校つくば自動車大学校シラバス作成ガイドライン（作成の手引き）に基づき、授業計画を作成する。 1. シラバス作成の基本方針 シラバスを作成するに際して、学校として共有すべき基本的な考え（何のためにシラバスを作成するのか、作成にあたって重視すること等）を掲げます。重視することとして、例えば、「学生の目線に立ってわかりやすい記述とする」、「学習の見通しが立てられるように具体的な記述とする」、「授業計画を不断に見直し、適時その内容を反映する」等が考えられます。 また、高等教育の負担軽減対応として、実務経験のある教員による授業科目については、教員の实務経験やそれを授業にどう活かしているのかを明示することを方針として掲げておくことが考えられます。 2. シラバスの役割 【教員の視点】担当している科目の「到達目標」「成績評価の方法」等をもとに当該年度の授業計画を立てます。各回の講義計画は設定した「到達目標」に学生を導くための実行計画になります。最終的に目的・目標が達成できるよう進捗状況や理解度等を確認しながら授業計画や方法等を適宜見直すことが重要です。 【学生の視点】学生はシラバスに記載されている「到達目標」「成績評価の方法」「授業計画」等の情報からその授業の科目を修得するためにはどれくらいの予習復習を含めた学習が必要かを把握します。 3. シラバスの整備と教育の質保証（作成手順）

学校の教育理念と個々に行われる授業の目的、達成されるべき到達目標には関係性があります。より良いシラバスを整備していくことが結果として教育の質を保証していくための改善に繋がります。シラバスを作成し、シラバスを活用した授業運営を行い、各学期における適切な評価や年間2回（9月・3月）に実施される各学科における講師ミーティング（教育課程編成委員会）による結果をもとに教育内容・方法等の改善を行っていくことが重要です。なお、シラバスは、新年度が始まる前までに作成しておかなければなりません。 4. シラバスの共通記載項目・各項目の解説 ①授業科目の基礎情報（科目名、授業時数、対象学科・コース、対象学年、必修／選択の別等） ②担当教員（実務経験のある教員、一般教員） ③授業概要 ④到達目標 ⑤授業の方法 ⑥授業スケジュール ⑦成績評価の方法と基準 ⑧授業時間外に必要な学修の具体的内容 ⑨使用教材 ⑩履修に当たっての留意点 5. 様式 具体的な共通様式を示し、学内におけるシラバスの標準化を図ります。 6. 公開 作成したシラバスは、ホームページ上の情報公開ページにて公開します。
成績評価の基準・方法 （概要） （1）評価方法（教育内容毎の評価は1～を総合して評価する。） 1. 筆記試験、実技試験の教育内容 80 についての評価は、150 点を満点として取得した結果を 100 点に換算し成績評価の 60%に充当する。 2. レポート及び論文審査は教科担当者が内容について検討し 100 点を上限とし点数にして、成績評価の 15%に充当する。 3. 教育内容毎の履修時間を 150 点満点として履修した結果を 100 点に換算し成績の 25%に充当する。 （2）評価基準 成績評価は次のように表示され D 判定を不合格とする。 A（100%～80%） B（79%～70%） C（69%～60%） D（59%～0%）
卒業・進級の認定基準 （概要） 専門学校つくば自動車大学校では、学生の臨機応変な対応で計画・準備・実行・評価を行い、必要な技術・知識を習得し、さらに技術・知識の向上の為、キャリア・コンサルティング技法、情報収集、情報提供を行い、コミュニケーション能力を身につけることを目的に卒業の認定の方針を策定する。 進級・卒業については、次の要件をすべて満たしていることとする。 （修了及び卒業要件） 修了及び卒業要件は次のとおりとする。 1. 修業年限以上在籍し、全科目を履修すること。 2. 指定基準により定められた履修時間数以上。 3. 学費を完納していること。 （進級要件） 進級の要件は次のとおりとする。 1. 科目毎の履修時間が 80%以上であること。 2. 科目毎の成績評価が C 以上であること。 3. 学費が完納していること。 ・進級卒業については、年度末の進級卒業判定会議を経て、校長がこれを認定する。 ・進級卒業が認定されなかった場合は、原級留置（留年）となる。なお留年は、各学年 1 回を限度とする。

学修支援等
(概要) 担任による定期的個別面談、及び保護者面談、長期休暇期間における補講の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 自動車整備業に関わる自動車販売ディーラー他			
(就職指導内容) ビジネスマナー・一般常識・面接指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 1 級小型自動車整備士・2 級ガソリン自動車整備士・2 級ジーゼル自動車整備士の受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談、保護者を含めた 3 者面談、転科の案内		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	車体整備士科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	153／単位	64／単位	/単位	89／単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	
			単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
45 人		16 人	0 人	3 人	5 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 専門学校つくば自動車大学校シラバス作成ガイドライン（作成の手引き）に基づき、授業計画を作成する。 1. シラバス作成の基本方針 シラバスを作成するに際して、学校として共有すべき基本的な考え（何のためにシラバスを作成するのか、作成にあたって重視すること等）を掲げます。重視することとして、例えば、「学生の目線に立ってわかりやすい記述とする」、「学習の見通しが立てられるように具体的な記述とする」、「授業計画を不断に見直し、適時その内容を反映する」等が考えられます。 また、高等教育の負担軽減対応として、実務経験のある教員による授業科目については、教員の实務経験やそれを授業にどう活かしているのかを明示することを方針として掲げておくことが考えられます。 2. シラバスの役割 【教員の視点】担当している科目の「到達目標」「成績評価の方法」等をもとに当該年度の授業計画を立てます。各回の講義計画は設定した「到達目標」に学生を導くための実行計画になります。最終的に目的・目標が達成できるよう進捗状況や理解度等を確認しながら授業計画や方法等を適宜見直すことが重要です。 【学生の視点】学生はシラバスに記載されている「到達目標」「成績評価の方法」「授業計画」等の情報からその授業の科目を修得するためにはどれくらいの予習復習を含めた学習が必要かを把握します。 3. シラバスの整備と教育の質保証（作成手順） 学校の教育理念と個々に行われる授業の目的、達成されるべき到達目標には関係性があります。より良いシラバスを整備していくことが結果として教育の質を保証していくための改善に繋がります。シラバスを作成し、シラバスを活用した授業運営を行い、各学期における適切な評価や年間2回（9月・3月）に実施される各学科における講師ミーティング（教育課程編成委員会）による結果をもとに教育内容・方法等の改善を行っていくことが重要です。なお、シラバスは、新年度が始まる前までに作成しておかなければなりません。 4. シラバスの共通記載項目・各項目の解説 ①授業科目の基礎情報（科目名、授業時数、対象学科・コース、対象学年、必修／選択の別等） ②担当教員（実務経験のある教員、一般教員） ③授業概要 ④到達目標 ⑤授業の方法 ⑥授業スケジュール ⑦成績評価の方法と基準 ⑧授業時間外に必要な学修の具体的内容 ⑨使用教材 ⑩履修に当たっての留意点 5. 様式 具体的な共通様式を示し、学内におけるシラバスの標準化を図ります。 6. 公開 作成したシラバスは、ホームページ上の情報公開ページにて公開します。	
成績評価の基準・方法	

(概要) (1) 評価方法（教育内容毎の評価は1～を総合して評価する。） 1. 筆記試験、実技試験の教育内容 80 についての評価は、150 点を満点として取得した結果を 100 点に換算し成績評価の 60%に充当する。 2. レポート及び論文審査は教科担当者が内容について検討し 100 点を上限とし点数にして、成績評価の 15%に充当する。 3. 教育内容毎の履修時間を 150 点満点として履修した結果を 100 点に換算し成績の 25%に充当する。 (2) 評価基準 成績評価は次のように表示され D 判定を不合格とする。 A (100%～80%) B (79%～70%) C (69%～60%) D (59%～0%)
卒業・進級の認定基準 (概要) 専門学校つくば自動車大学校では、学生の臨機応変な対応で計画・準備・実行・評価を行い、必要な技術・知識を習得し、さらに技術・知識の向上の為、キャリア・コンサルティング技法、情報収集、情報提供を行い、コミュニケーション能力を身につけることを目的に卒業の認定の方針を策定する。 進級・卒業については、次の要件をすべて満たしていることとする。 (修了及び卒業要件) 修了及び卒業要件は次のとおりとする。 1. 修業年限以上在籍し、全科目を履修すること。 2. 指定基準により定められた履修時間数以上。 3. 学費を完納していること。 (進級要件) 進級の要件は次のとおりとする。 1. 科目毎の履修時間が 80%以上であること。 2. 科目毎の成績評価が C 以上であること。 3. 学費が完納していること。 ・進級卒業については、年度末の進級卒業判定会議を経て、校長がこれを認定する。 ・進級卒業が認定されなかった場合は、原級留置（留年）となる。なお留年は、各学年 1 回を限度とする。
学修支援等 (概要) 担任による定期的個別面談、及び保護者面談、長期休暇期間における補講の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 自動車整備業に関わる自動車販売ディーラー、钣金塗装事業場 他			

(就職指導内容) ビジネスマナー・一般常識・面接指導
(主な学修成果（資格・検定等）) 車体整備士・２級ガソリン自動車整備士・２級ジーゼル自動車整備士の受験資格
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	3 人	15.8%
(中途退学の主な理由) 学習意欲欠如、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談、保護者を含めた３者面談、転科の案内		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	自動車工学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	102／単位	45/単位	/単位	57/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		44 人	6 人	4 人	4 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 専門学校つくば自動車大学校シラバス作成ガイドライン（作成の手引き）に基づき、授業計画を作成する。 1. シラバス作成の基本方針 シラバスを作成するに際して、学校として共有すべき基本的な考え（何のためにシラバスを作成するのか、作成にあたって重視すること等）を掲げます。重視することとして、例えば、「学生の目線に立ってわかりやすい記述とする」、「学習の見通しが立てられるように具体的な記述とする」、「授業計画を不断に見直し、適時その内容を反映する」等が考えられます。 また、高等教育の負担軽減対応として、実務経験のある教員による授業科目については、教員の实務経験やそれを授業にどう活かしているのかを明示することを方針として掲げておくことが考えられます。 2. シラバスの役割 【教員の視点】担当している科目の「到達目標」「成績評価の方法」等をもとに当該年度の授業計画を立てます。各回の講義計画は設定した「到達目標」に学生を導くための実行計画になります。最終的に目的・目標が達成できるよう進捗状況や理解度等を確認しながら授業計画や方法等を適宜見直すことが重要です。 【学生の視点】学生はシラバスに記載されている「到達目標」「成績評価の方法」「授業計画」等の情報からその授業の科目を修得するためにはどれくらいの予習復習を含めた学習が必要かを把握します。 3. シラバスの整備と教育の質保証（作成手順） 学校の教育理念と個々に行われる授業の目的、達成されるべき到達目標には関係性があります。より良いシラバスを整備していくことが結果として教育の質を保証していくための改善に繋がります。シラバスを作成し、シラバスを活用した授業運営を行い、各学期における適切な評価や年間2回（9月・3月）に実施される各学科における講師ミーティング（教育課程編成委員会）による結果をもとに教育内容・方法等の改善を行っていくことが重要です。なお、シラバスは、新年度が始まる前までに作成しておかなければなりません。 4. シラバスの共通記載項目・各項目の解説 ①授業科目の基礎情報（科目名、授業時数、対象学科・コース、対象学年、必修／選択の別等） ②担当教員（実務経験のある教員、一般教員） ③授業概要 ④到達目標 ⑤授業の方法 ⑥授業スケジュール ⑦成績評価の方法と基準 ⑧授業時間外に必要な学修の具体的内容 ⑨使用教材 ⑩履修に当たっての留意点 5. 様式 具体的な共通様式を示し、学内におけるシラバスの標準化を図ります。 6. 公開 作成したシラバスは、ホームページ上の情報公開ページにて公開します。	

成績評価の基準・方法			
(概要) (1) 評価方法（教育内容毎の評価は1～を総合して評価する。） 1. 筆記試験、実技試験の教育内容 80 についての評価は、150 点を満点として取得した結果を 100 点に換算し成績評価の 60%に充当する。 2. レポート及び論文審査は教科担当者が内容について検討し 100 点を上限とし点数にして、成績評価の 15%に充当する。 3. 教育内容毎の履修時間を 150 点満点として履修した結果を 100 点に換算し成績の 25%に充当する。 (2) 評価基準 成績評価は次のように表示され D 判定を不合格とする。 A (100%～80%) B (79%～70%) C (69%～60%) D (59%～0%)			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 専門学校つくば自動車大学校では、学生の臨機応変な対応で計画・準備・実行・評価を行い、必要な技術・知識を習得し、さらに技術・知識の向上の為、キャリア・コンサルティング技法、情報収集、情報提供を行い、コミュニケーション能力を身につけることを目的に卒業の認定の方針を策定する。 進級・卒業については、次の要件をすべて満たしていることとする。 (修了及び卒業要件) 修了及び卒業要件は次のとおりとする。 1. 修業年限以上在籍し、全科目を履修すること。 2. 指定基準により定められた履修時間数以上。 3. 学費を完納していること。 (進級要件) 進級の要件は次のとおりとする。 1. 科目毎の履修時間が 80%以上であること。 2. 科目毎の成績評価が C 以上であること。 3. 学費が完納していること。 ・進級卒業については、年度末の進級卒業判定会議を経て、校長がこれを認定する。 ・進級卒業が認定されなかった場合は、原級留置（留年）となる。なお留年は、各学年 1 回を限度とする。			
学修支援等			
(概要) 担任による定期的個別面談、及び保護者面談、長期休暇期間における補講の実施			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
34 人 (100%)	0 人 (0%)	34 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 自動車整備業に関わる自動車販売ディーラー、パーツ販売会社、民間整備工場 他			

(就職指導内容) ビジネスマナー・一般常識・面接指導
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級ガソリン自動車整備士・2級ジーゼル自動車整備士の受験資格
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48 人	1 人	2.1%
(中途退学の主な理由) 学習意欲欠如		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談、保護者を含めた3者面談、転科の案内		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	国際自動車整備士科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	113 単位時間／単位	63/単位	/単位	50/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		118 人	117 人	5 人	2 人	7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 専門学校つくば自動車大学校シラバス作成ガイドライン（作成の手引き）に基づき、授業計画を作成する。 1. シラバス作成の基本方針 シラバスを作成するに際して、学校として共有すべき基本的な考え（何のためにシラバスを作成するのか、作成にあたって重視すること等）を掲げます。重視することとして、例えば、「学生の目線に立ってわかりやすい記述とする」、「学習の見通しが立てられるように具体的な記述とする」、「授業計画を不断に見直し、適時その内容を反映する」等が考えられます。 また、高等教育の負担軽減対応として、実務経験のある教員による授業科目については、教員の实務経験やそれを授業にどう活かしているのかを明示することを方針として掲げておくことが考えられます。 2. シラバスの役割 【教員の視点】担当している科目の「到達目標」「成績評価の方法」等をもとに当該年度の授業計画を立てます。各回の講義計画は設定した「到達目標」に学生を導くための実行計画になります。最終的に目的・目標が達成できるよう進捗状況や理解度等を確認しながら授業計画や方法等を適宜見直すことが重要です。 【学生の視点】学生はシラバスに記載されている「到達目標」「成績評価の方法」「授業計画」等の情報からその授業の科目を修得するためにはどれくらいの予習復習を含めた学習が必要かを把握します。 3. シラバスの整備と教育の質保証（作成手順） 学校の教育理念と個々に行われる授業の目的、達成されるべき到達目標には関係性があります。より良いシラバスを整備していくことが結果として教育の質を保証していくための改善に繋がります。シラバスを作成し、シラバスを活用した授業運営を行い、各学期における適切な評価や年間2回（9月・3月）に実施される各学科における講師ミーティング（教育課程編成委員会）による結果をもとに教育内容・方法等の改善を行っていくことが重要です。なお、シラバスは、新年度が始まる前までに作成しておかなければなりません。 4. シラバスの共通記載項目・各項目の解説 ①授業科目の基礎情報（科目名、授業時数、対象学科・コース、対象学年、必修／選択の別等） ②担当教員（実務経験のある教員、一般教員） ③授業概要 ④到達目標 ⑤授業の方法 ⑥授業スケジュール ⑦成績評価の方法と基準 ⑧授業時間外に必要な学修の具体的内容 ⑨使用教材 ⑩履修に当たっての留意点 5. 様式 具体的な共通様式を示し、学内におけるシラバスの標準化を図ります。 6. 公開 作成したシラバスは、ホームページ上の情報公開ページにて公開します。	

成績評価の基準・方法			
(概要) (1) 評価方法（教育内容毎の評価は1～を総合して評価する。） 1. 筆記試験、実技試験の教育内容 80 についての評価は、150 点を満点として取得した結果を 100 点に換算し成績評価の 60%に充当する。 2. レポート及び論文審査は教科担当者が内容について検討し 100 点を上限とし点数にして、成績評価の 15%に充当する。 3. 教育内容毎の履修時間を 150 点満点として履修した結果を 100 点に換算し成績の 25%に充当する。 (2) 評価基準 成績評価は次のように表示され D 判定を不合格とする。 A (100%～80%) B (79%～70%) C (69%～60%) D (59%～0%)			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 専門学校つくば自動車大学校では、学生の臨機応変な対応で計画・準備・実行・評価を行い、必要な技術・知識を習得し、さらに技術・知識の向上の為、キャリア・コンサルティング技法、情報収集、情報提供を行い、コミュニケーション能力を身につけることを目的に卒業の認定の方針を策定する。 進級・卒業については、次の要件をすべて満たしていることとする。 (修了及び卒業要件) 修了及び卒業要件は次のとおりとする。 1. 修業年限以上在籍し、全科目を履修すること。 2. 指定基準により定められた履修時間数以上。 3. 学費を完納していること。 (進級要件) 進級の要件は次のとおりとする。 1. 科目毎の履修時間が 80%以上であること。 2. 科目毎の成績評価が C 以上であること。 3. 学費が完納していること。 ・進級卒業については、年度末の進級卒業判定会議を経て、校長がこれを認定する。 ・進級卒業が認定されなかった場合は、原級留置（留年）となる。なお留年は、各学年 1 回を限度とする。			
学修支援等			
(概要) 担任による定期的個別面談、及び保護者面談、長期休暇期間における補講の実施			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 自動車整備業に関わる自動車販売ディーラー、パーツ販売会社、民間整備工場 他			

(就職指導内容) ビジネスマナー・一般常識・面接指導
(主な学修成果(資格・検定等)) 2級ガソリン自動車整備士・2級ジーゼル自動車整備士の受験資格
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
94 人	4 人	4.3%
(中途退学の主な理由) 就職、進路変更、ケガによる帰国など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談、保護者を含めた3者面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	農業機械整備士科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	55／単位	37/単位	5/単位	13/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
25 人		15 人	0 人	1 人	1 人	2 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 専門学校つくば自動車大学校シラバス作成ガイドライン（作成の手引き）に基づき、授業計画を作成する。 1. シラバス作成の基本方針 シラバスを作成するに際して、学校として共有すべき基本的な考え（何のためにシラバスを作成するのか、作成にあたって重視すること等）を掲げます。重視することとして、例えば、「学生の目線に立ってわかりやすい記述とする」、「学習の見通しが立てられるように具体的な記述とする」、「授業計画を不断に見直し、適時その内容を反映する」等が考えられます。 また、高等教育の負担軽減対応として、実務経験のある教員による授業科目については、教員の实務経験やそれを授業にどう活かしているのかを明示することを方針として掲げておくことが考えられます。 2. シラバスの役割 【教員の視点】担当している科目の「到達目標」「成績評価の方法」等をもとに当該年度の授業計画を立てます。各回の講義計画は設定した「到達目標」に学生を導くための実行計画になります。最終的に目的・目標が達成できるよう進捗状況や理解度等を確認しながら授業計画や方法等を適宜見直すことが重要です。 【学生の視点】学生はシラバスに記載されている「到達目標」「成績評価の方法」「授業計画」等の情報からその授業の科目を修得するためにはどれくらいの予習復習を含めた学習が必要かを把握します。 3. シラバスの整備と教育の質保証（作成手順） 学校の教育理念と個々に行われる授業の目的、達成されるべき到達目標には関係性があります。より良いシラバスを整備していくことが結果として教育の質を保証していくための改善に繋がります。シラバスを作成し、シラバスを活用した授業運営を行い、各学期における適切な評価や年間2回（9月・3月）に実施される各学科における講師ミーティング（教育課程編成委員会）による結果をもとに教育内容・方法等の改善を行っていくことが重要です。なお、シラバスは、新年度が始まる前までに作成しておかなければなりません。 4. シラバスの共通記載項目・各項目の解説 ①授業科目の基礎情報（科目名、授業時数、対象学科・コース、対象学年、必修／選択の別等） ②担当教員（実務経験のある教員、一般教員） ③授業概要 ④到達目標 ⑤授業の方法 ⑥授業スケジュール ⑦成績評価の方法と基準 ⑧授業時間外に必要な学修の具体的内容 ⑨使用教材 ⑩履修に当たっての留意点 5. 様式 具体的な共通様式を示し、学内におけるシラバスの標準化を図ります。 6. 公開 作成したシラバスは、ホームページ上の情報公開ページにて公開します。	

成績評価の基準・方法			
(概要) (1) 評価方法（教育内容毎の評価は1～を総合して評価する。） 1. 筆記試験、実技試験の教育内容 80 についての評価は、150 点を満点として取得した結果を 100 点に換算し成績評価の 60%に充当する。 2. レポート及び論文審査は教科担当者が内容について検討し 100 点を上限とし点数にして、成績評価の 15%に充当する。 3. 教育内容毎の履修時間を 150 点満点として履修した結果を 100 点に換算し成績の 25%に充当する。 (2) 評価基準 成績評価は次のように表示され D 判定を不合格とする。 A (100%～80%) B (79%～70%) C (69%～60%) D (59%～0%)			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 専門学校つくば自動車大学校では、学生の臨機応変な対応で計画・準備・実行・評価を行い、必要な技術・知識を習得し、さらに技術・知識の向上の為、キャリア・コンサルティング技法、情報収集、情報提供を行い、コミュニケーション能力を身につけることを目的に卒業の認定の方針を策定する。 進級・卒業については、次の要件をすべて満たしていることとする。 (修了及び卒業要件) 修了及び卒業要件は次のとおりとする。 1. 修業年限以上在籍し、全科目を履修すること。 2. 指定基準により定められた履修時間数以上。 3. 学費を完納していること。 (進級要件) 進級の要件は次のとおりとする。 1. 科目毎の履修時間が 80%以上であること。 2. 科目毎の成績評価が C 以上であること。 3. 学費が完納していること。 ・進級卒業については、年度末の進級卒業判定会議を経て、校長がこれを認定する。 ・進級卒業が認定されなかった場合は、原級留置（留年）となる。なお留年は、各学年 1 回を限度とする。			
学修支援等			
(概要) 担任による定期的個別面談、及び保護者面談、長期休暇期間における補講の実施			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9 人 (100%)	2 人 (22.2%)	7 人 (77.8%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 農業機械メーカー、農協、農業関係団体 他			

(就職指導内容) ビジネスマナー・一般常識・面接指導
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級農業機械整備士の受験資格、ガス溶接、アーク溶接 他
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談、保護者を含めた3者面談		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
一級自動車整備士科	100,000 円	600,000 円	520,000 円	施設費 200,000 円 実験実習費 320,000 円
車体整備士科	100,000 円	600,000 円	520,000 円	施設費 200,000 円 実験実習費 320,000 円
自動車工学科	100,000 円	600,000 円	520,000 円	施設費 200,000 円 実験実習費 320,000 円
国際自動車整備士科	100,000 円	350,000 円	420,000 円	施設費 200,000 円 実験実習費 220,000 円
農業機械整備士	100,000 円	600,000 円	520,000 円	施設費 200,000 円 実験実習費 320,000 円
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.tact.ac.jp/info.html で公開する
第三者評価の基本方針（実施方法・体制） 第三者評価に関する基本方針（仮）を、次の通り制定する。実施時期は未定のため、当面、自己点検評価、学校関係者評価にて対応していく。 1. 基本方針 ・本校は、教育の質保証と継続的な改善を図るため、第三者評価を定期的に受審することを基本方針とする。 ・第三者評価は、学校運営・教育活動を客観的に検証し、社会からの信頼を高めるための重要な仕組みであると位置づける。 ・評価結果を積極的に公開し、説明責任を果たすとともに、改善サイクル（PDCA）に組み込む。 2. 第三者評価の目的 ・教育の質保証：教育課程、指導方法、学習成果の妥当性を外部の視点で検証する。 ・継続的改善：評価結果を基に、学校運営・教育活動の改善を計画的に実施する。 ・社会的信頼の向上：透明性の高い学校運営を行い、学生・保護者・地域・産業世界からの信頼を確保する。 ・法令遵守：学校教育法および関連法規に基づく第三者評価制度に適切に対応する。 3. 評価受審の基本方針 ・受審周期：概ね5年ごとに第三者評価を受審する。 ・評価機関：文部科学大臣が認証した評価機関等から選定する。 ・評価範囲：学校運営、教育課程、教員組織、学生支援、施設設備、学習成果、産業界との連携など、評価機関が定める全領域を対象とする。 ・自己評価との連動：第三者評価の受審に先立ち、毎年度の自己評価を実施し、改善状況を整理する。 4. 評価受審の実施体制

・第三者評価委員会（校内：仮）を設置し、受審準備・資料作成・改善計画の策定等を統括する。 ・委員会は、校長を責任者とし、教務部、事務局などの代表者で構成する。 ・必要に応じて、産業界・外部有識者の意見を取り入れる。		
5. 評価結果の活用		
・評価機関からの指摘・助言を踏まえ、改善計画（アクションプラン）を策定する。 ・改善計画は、年度計画に反映し、進捗管理を行う。 ・改善状況は、毎年度の自己評価報告書に記載し、継続的な改善サイクルを確立する。		
6. 情報公開		
・第三者評価の結果（評価報告書・改善計画等）は、学校公式ウェブサイトで公開する。		
7. 関係者への周知		
・教職員に対し、第三者評価の目的・意義・評価基準を周知し、協力体制を整える。 ・学生にも評価の趣旨を説明し、アンケート等への協力を求める。		
8. 法令順守		
・学校教育法、専門学校設置基準、第三者評価に関する省令・通知等を遵守する。 ・評価機関の基準・手続きに従い、適切な資料提出・説明責任を果たす。		
9. 見直し		
・本基本方針は、社会情勢、法令改正、評価機関の基準変更等に応じて適宜見直す。		
第三者評価の委員 ※学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
元茨城県立高等学校校長	令和8年4月1日～令和12年3月31日（4年）	教育関係者
元茨城県立高等学校教頭	令和8年4月1日～令和12年3月31日（4年）	教育関係者
団体役員	令和8年4月1日～令和12年3月31日（4年）	地域住民
公立学校養護教諭	令和8年4月1日～令和12年3月31日（4年）	卒業生
会社役員	令和8年4月1日～令和12年3月31日（4年）	企業関係者
一般企業	令和8年4月1日～令和12年3月31日（4年）	卒業生
一般企業 編集チーフ	令和8年4月1日～令和12年3月31日（4年）	企業関係者
会社役員	令和8年4月1日～令和12年3月31日（4年）	企業関係者
一般企業	令和8年4月1日～令和12年3月31日（4年）	卒業生
第三者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.tact.ac.jp/info.html で公開する		
（備考）		
第三者評価未実施。実施時期未定。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.tact.ac.jp/info.html>